



# 鳳来町の間伐材が勝川駅前 の花壇になった 都市と山村の交流



石田 富男

行政のよびかけで始まった花壇づくり。間伐材を利用するだけでなく、山のことを知り、間伐材の加工も体験しようということに。  
材料づくりから係った花壇には愛着がわく。都市と山村の交流による新たなまちづくりに期待したい。

勝川駅南口周辺まちづくりワークショップ  
かつては老朽した家屋が密集していた春日井市勝川駅南口周辺がまちの再整備によって大きく変わり、新しい住宅がどんどん建設されている。一方で、まちの整備に伴う住み替えにより地区内の人口は急減し、従来のコミュニティが壊れつつあった。

このような中で、地域住民にまちづくりに係ってもらおうことで、コミュニティの再生を図り、住みよいまちにしていくと取り組んでいるのが、まちづくりワークショップである。二〇〇一年度より取り組んでいるものだが、ここでは、思わぬ展開をみせた今年度の花壇づくりワークショップについて紹介したい。

## 花壇づくりのきっかけ

花壇づくりのきっかけは行政からのしかなかった。二〇〇一年度に駅前広場の計画づくりワークショップを行った際、暫定的に整備される駅前広場に手づくり花壇を設置したらというアイデアがあった。勝川駅構内で老人会が手入れをしていた花壇が高架化に伴って廃止されたという背景もあった。しかし、住民の側か



花壇の材料となる丸太の表面を焼き付ける。こうすることによって腐食を抑えることができる。(2004.9.19)

ら主体的に花壇づくりをやるうという声があがったわけではなかった。ある意味では、ワークショップのテーマに困って取り組んだといえるかもしれない。  
それゆえか、第一回のワークショップへの参加は過去に比べ少なく、ワークショップの中で「何故、このようなことをするのか」といった声があったのも事実だ。この段階では、つきあいで参加したという人が多かったのではないだろうか。

## 鳳来町「いろいろの森」の活動に参加

当初、間伐材は愛知県尾張農林水産林務課の「間伐材丸太配布事業」を利用す



花の苗植えの作業。雑草の生えていた空き地が、見違えるようにきれいになった。(2004.11.13)

るということであったが、その話がなくなり、独自に入手する必要がでてきた。ここから話が展開していく。当社の嘱託研究員である北村が参加していた鳳来町「いろいろの森」で活動するグループに協力を要請する中で、単に間伐材を提供してもらっただけではなく、都市の人に山の現状を知ってもらおう、間伐材の加工も体験してもらってはどうか、ということになった。遠方であることから、地元の方がどれだけこの話ののつてくれるか心配であったが、地元リーダーの理解が得られ、住民の方に呼びかけたところ七名の方に参加いただくことができた。  
当日は朝七時半に集合し、バスで鳳来町まで。雨の降りそうな天気であり、後で聞くと参加した人も当初はあまりのり気ではなかったようだ。ところが山に着し、少し山を歩きながら山の話の聞き、その後、花壇の材料となる丸太づくりを体験する中でだんだん参加者の顔色が変わっていった。チェーンソーで丸太を切り、皮をはいだものの表面を焼きつけ、最後にワイヤブラシがけを行ったのだが、どれもはじめて経験することばかり。立派な花壇の材料ができあがり、花壇づくりに対する期待が高まっていった。この様子は、「いろいろの森」の活動取材に来

## 鳳来町「いろいろの森」

活動が始まったのは1998年。鳳来寺山の参道近辺に分散する0.7~6haの森(合計10数ha)をフィールドとし、年12~14回ほどの植樹や森の手入れなどを行っている。活動の中心母体は「つげ野の森市民ネットワーク(都市居住者主体の教育系市民団体)」「鳳来寺門谷総合開発委員会(地元活性化組織)」「黄柳野高校」の3者からなっており、地元住民と都市住民が一緒になって活動を展開している。カラー印刷の非常に楽しい活動レポートが毎回発行されている。



勝川の住民が参加した2004.9.19の様子(活動レポートより)

た中日新聞の記者が記事にもしてくれた。この日は「いろいろの森」の定例活動の日。当初、別の日を予定していたが、地元行事と重なったことから変更したのだが、結果としては、この取り組みを「いろいろの森」の活動に位置づけてもらっただけで、他の参加者との交流もでき、たおかげで、他の参加者との交流もでき、また、この日の作業で準備できなかった分は翌月の定例活動で作成してもらうこともできた。

## 花壇づくり花の苗植え

花壇づくりには、三十名の住民のほか、当日早朝に鳳来町から材料を届けていただいたYさん、中部大学のS先生と学生さん、鳳来町で出会った春日井市のOさんなど、いろいろな人に参加してもらい、事前に掘っておいた穴のところに丸太を並べ、砂、畑土、腐葉土を入れて混ぜ合わせる作業を行った。真っ直ぐに並べたつもりが曲がってしまったが、それが手づくりの味をかし出している。  
今後の展開への期待  
今回は行政が主導した形であるが、これをきっかけとして新たなまちづくりに展開していくことを期待したい。  
勝川駅前と鳳来町のつながりができたわけであり、このつながりを活かせば、おもしろい取り組みができるに違いない。勝川の子もたちが鳳来町の山でいきいきと下草刈をやる、勝川に新たにできる公園に鳳来町の木を使った手づくりのものが一杯でき、その作業をきっかけに地域の結束が高まる、こんな姿を想像すると楽しくなる。